

平成 23 年度森林管理士試験認定試験問題

- (1) 森林の持つ水源涵養機能として正しくないものはどれか。
1. 洪水の緩和機能
 2. 水質浄化機能
 - ③ 雪崩防止機能
 4. 水量調節機能
- (2) 地球温暖化防止京都会議の作業部会で、日本の森林がCO₂の吸収量として認められた数量（炭素トン）で正しいのはどれか。
1. 1,000 万トン
 2. 1,200 万トン
 - ③ 1,300 万トン
 4. 1,400 万トン
- (3) 森林法の改正により経営計画を作成し、市町村の認定を受けた森林所有者が受けられる 税法上の優遇で誤りはどれか。
1. 法人税
 2. 所得税
 - ③ 登録免許税
 4. 相続税
- (4) 我が国の林業、林産業に関する記述として、正しいものはどれか。
- 1 我が国の林業産出額は、約 8,500 億円で、その約 50%はキノコ類の産出額となっている。
 - 2 現在の林業就業者数は、約 12 万人となっている。
 - ③ 合板用材への国産材の供給量は近年急速に増加しており、現在では約 30%に達している。
 - 4 国産材の人工乾燥材の出荷量は、依然として低位にあり、全体の 10%程度にとどまっている。

正解 3

(5) 我が国の森林に関する記述として正しいものはどれか。

- ① 人工林の植栽樹種は、スギ、ヒノキ、カラマツの順に多い。
- 2 保安林面積は、全森林面積の約2割を占めている。
- 3 森林の全蓄積は、約30億m³である。
- 4 10ヘクタール未満の森林所有者の所有する森林は、全体の約60%を占めている。

正解 1

(6) 「森林・林業再生プラン」の実行や施業集約化を主たる目的として、平成23年6月に森林法が改正されたが、改正事項に含まれていないものはどれか。

- ① 森林施業プランナーが、森林法に規定された資格となった。
- 2 森林計画制度の見直しが行われ、森林施業計画が森林経営計画に改められた。
- 3 新たに森林の土地を所有した者に届出義務が課されることとなった。
- 4 無届けによる森林の伐採に対して、伐採の中止や伐採後の造林を行わせる行政命令が発出できることとなった。

正解 1

(7) 木材需給に関する記述として正しいものはどれか

- 1 国産材の自給率は、丸太の完全自由化以降、一貫して低下してきている。
- 2 パルプチップの自給率は、製材品の自給率よりも高い。
- 3 我が国では、輸入丸太は、国産材の丸太よりも安い価格で取引されている。
- ④ 現行の森林・林業基本計画においては、10年後の自給率をパルプチップ用材でおおむね40%と見通している。

正解 4

(8) 次の制度の根拠となっている法律・制度を、下記の一覧から選んで下さい。

- | | | |
|------------|-------|-------|
| 1) 保安林 | — (a) | 答え: a |
| 2) 森林計画 | — (a) | a |
| 3) 林業労働力確保 | — (c) | c |
| 4) 各県森林環境税 | — (d) | d |
| 5) 森林組合 | — (b) | b |
- a. 森林法
 - b. 森林組合法
 - c. 森林・林業基本法
 - d. 各県条例

(9) 次の用語を簡潔に、およそ 30～100 字で、説明して下さい。

- 1) 私有林と公有林
- 2) 森林組合
- 3) 森林簿 : 民有林について林班、小班を単位として樹種・林齢・面積・成長量・森林の所有者・所在・施業方法・地況等の情報を取りまとめた帳簿
- 4) 小規模・自伐林家 :
- 5) 林業経営集約化・団地化

(10) 第10回生物多様性条約締約国会議で決まった愛知目標（ポスト 2010 年目標）について正しくないのはどれか。

1. 目標達成の期限が、概ね 2020 年と設定された。
2. 森林を含む自然生息地の損失の速度が少なくとも半減し、劣化と分断が顕著に減少することを目標とする。
- ③ 温暖化と生物多様性は無関係であると明記された。
4. 農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理されることを目標とする。
5. 遺伝資源に対する公平な利益配分等に関しては、愛知目標とは別に名古屋議定書が提案された。

答え③

(11) 生物多様性の直接的な脅威といえないのは、次のうちどれか。

1. 人間による過度の開発（過度な人工林化など）
2. 人間活動の変化（耕作放棄など）
3. 地球温暖化
4. 外来生物の分布拡大
- ⑤ インターネットの普及

答え⑤

(12) 気候変動防止と生物多様性保全の関連について、正しいのは次のうちどれか。

1. 気候変動防止のために炭素吸収源である森林面積を維持することは重要であるが、生物多様性に配慮する必要はない。
2. 生物多様性は森林の成長や持続的な維持に不可欠だが、気候変動とはおそらく何の関係もないだろう。
3. 希少な生物を多数守ることで、温暖化が防止できることがわかってきた。

④生物多様性保全は、炭素排出量削減におけるセーフガード（安全弁）と見なされている。

5. 熱帯林は一般に生物多様性が高いので、熱帯で植林をすれば自動的に生物多様性は守られる。

答え④

（13）生物多様性保全に有効な森林管理といえないのは次のうちどれか。

- ①大規模皆伐、短伐期施業
2. 老齢天然林（人工林ではない森林）の維持
3. 溪畔林（溪流・小規模河川に沿った森林）の維持
4. 人工林の間伐
5. 天然林の分断化の解消

答え①

（14）生物多様性によって人間社会にもたらされる恩恵といえないのはどれか

1. エコツアーなどのレクリエーション
2. 天敵などの害虫の制御
3. 農産物などが種や実などをつけるための花粉媒介
4. 新たな薬品などをもたらす遺伝資源
- ⑤レアメタルや輝石などの鉱物

答え⑤

（15）森林セラピーに関する記述のうち最も適切なものに○印を付けなさい。正解2

1. 森林浴は、森林セラピー基地でのみリラックス効果が得られる。
- ② 森林セラピーは、日本で誕生した言葉であり、現在韓国でも広がりつつある。
3. 森林セラピーは、1人で森林浴をすることで最も効果が高まる。
4. 森林セラピー基地は、現在全国でおよそ100か所を数える。

（16）森林セラピーの効果に関する記述のうち最も適切なものに○印を付けなさい。

正解4

1. 森林セラピーには、カロリーを消費し、糖尿病を治す効果があることが分かってきた。
2. 森林セラピーには、脳活動を活性化する効果があることが分かってきた。
3. 森林セラピーには、うつ病を治す効果があることが分かってきた。

④ 森林セラピーには、免疫能を向上し、抗がん能を高めることが分かってきた。

(17) フィトンチッドに関する記述のうち最も適切なものに○印を付けなさい。

正解2

1. フィトンチッドとは、樹木の花や果実から放散される香り物質のことである。
- ② フィトンチッドは、針葉樹で多く、広葉樹ではカエデ類が多く放出する。
3. フィトンチッドには、がんを治す効果があることが分かってきた。
4. フィトンチッドは、アルコールやトルエンなどの化学物質で構成される。

(18) 森林浴の生理効果に関する記述のうち最も適切なものに○印を付けなさい。正

解1

- ① 森林セラピーによって、副交感神経活動が活性化し、リラックスする。
2. 森林セラピーによって、収縮期血圧が上昇し、リラックスする。
3. 森林セラピーによって、アドレナリンやノルアドレナリン濃度が上がり、リラックスする。
4. 森林セラピーによって、酸化ストレスが上昇し、抗酸化機能が低下する。

(19) 森林セラピーロードに関する記述のうち最も適切なものに○印を付けなさい。

正解3

1. 森林セラピーロードとは、森林セラピー基地に1本だけ認定された歩道のことである。
2. 森林セラピーロードは、歩きやすいようにアスファルト舗装された歩道である。
- ③ 森林セラピーロードは、五感をフルに活用し、森を体験できる歩道である。
4. 森林セラピーロードは、認定されたセラピーガイドと一緒にないと利用できない。

(20) 木材の自給率についての記述で、次の1.～4.のうち適切でないと思われるものを選んで番号に○印を付けなさい。

1. 平成21年の木材総供給量は6,321万 m^3 に止まり、景気低迷で住宅着工戸数や紙の生産量が落ち込み、3年連続の減少となったが、自給率は前年より3.8ポイント上昇した。
2. 平成21年の自給率の上昇は、北洋材丸太の関税問題や中国など新興経済国の木材需要の高まりの影響等により外材の供給量が大きく減少した一方で、国産材の供給量の減少が少なかったことによる。

3. 平成21年の自給率は27.8%となり、過去最低であった平成12年の18.2%以降は、外材の供給量が大きく減少したため、自給率は上昇傾向で推移している。
4. 平成21年の自給率を用途別にみると、製材用材、パルプ・チップ用材、合板用材とも、いずれの用途においても国産材利用割合が増加しており、なかでも合板用材の自給率が最も高い。

(21) 用材の日本農林規格に基づく丸太の材積の記述で、次の1.～4.のうち適切と思われるものを選んで番号に○印を付けなさい。

1. 丸太の長さがそれぞれ5mの素材で、丸太の径が20cmの素材の材積は、丸太の径が40cmの素材の材積の2分の1である。
2. 丸太の長さがそれぞれ5mの素材で、丸太の径が20cmの素材の材積は、丸太の径が10cmの素材の材積の2倍である。
3. 丸太の径がそれぞれ50cmの素材で、丸太の長さが4mの素材の材積は、丸太の長さが8mの素材の材積の2分の1である。
4. 丸太の径がそれぞれ50cmの素材で、丸太の長さが4mの素材の材積は、丸太の長さが2mの素材の材積の2倍である。

(22) 日本の木材産業の動向についての記述で、次の1.～4.のうち適切でないと思われるものを選んで番号に○印を付けなさい。

1. 我が国の製材工場数は、ここ10年間で半減しており、減少した工場の大部分が小規模工場であり、一方で大規模工場が増加していることから、中小規模の工場数は全体の6割を下回っている。
2. 近年、乾燥技術の向上や大規模な国産材製材工場の増加等により、人工乾燥材の出荷量は増加しているものの、建築用製材品に占める人工乾燥材の割合ははまだ3割程度にとどまっている。
3. 国内で生産される集成材の多くは、欧州や北米から輸入されたラミナを原料としており、国産材ラミナを原料とする集成材の割合は、僅か2割程度にすぎない。
4. 国内で生産される合板の原料は、これまでロシア産の北洋材が多くを占めていたが、スギ、カラマツ等の国産材針葉樹への転換が進んでいることから、合板用素材に占める国産材の割合は6割を上回っている。

(23) 次の文章について正しいものの番号に○をつけなさい。

- ① 育林の目的は、環境林・経済林など生産目標に応じて変化する。
2. 広葉樹と針葉樹との混交林造成は容易であり、林地保全効果が高い。
3. 間伐は、経済性を重視することが大切で、良質で高く売れるものから伐採することが望ましい。
4. 下刈りは種内競争を緩和する作業である。
5. 育林は経済行為であるから、森林の持つ公益的機能の増進を考慮する必要はない。

答 1

(24) 次の間伐作業に関する記述のうち、誤っているものの番号に○をつけなさい。

1. 除伐は、林冠の閉鎖直前に行い、下刈り後に侵入した植栽木、生育不良な植栽木を伐り除く作業である
2. 枝打ちは、無節材生産や林内環境の整備、生長量のコントロールのために行う。
3. 戦後の育林の変遷は、復旧造林に始まり、拡大造林時代を経て環境保全を目的とした政策に変化してきた。
4. 定性間伐と定量間伐は、間伐程度を判断する考え方の違いで有り、列状間伐と小面積間伐などは間伐の仕方で区分されている。
- ⑤ ポット、コンテナなどによる育苗は、画期的な省力が期待できるまったく新しい技術として期待されている。

答 5

記述式

問題1 寺崎式幹級区分と間伐強度について述べなさい。

定性間伐 定量間伐。 選木基準。 優勢木、劣勢木。 強度、中庸、弱度間伐。などのキーワードがあり、定量的に間伐量が決まった後、実際に残す木、間伐する木を決めるための目安であることが述べられている。

(25) 森林・林業再生プランを進めるために、不可欠とされる柱はなにか。2つ挙げよ。

正解 森林の集約化 林業機械の導入 作業道の開設 人材の育成

(26) 森林法が改正された。ポイントとなる改正点を2つ挙げよ。

正解 所有が明確でない場合でもその区域内で施業が出来る
所有者を特定する個人情報を利用できる
森林を新しく所有した時は、届け出が義務
間伐施業の勧告が出来る
無届伐採には、中止や伐採後の造林命令が出来る

1・国が林業従事者として認定する資格には何があるか。2つ挙げよ。

正解 フォレスター
森林施業プランナー
フォレストリーダー
フォレストマネージャー
フォレストワーカー
森林作業道作設オペレーター